

韓国外国語大学校外国語大学調査報告

日時 2008年2月22日

御回答者氏名等 金鍾徳 日本語学科教授

1. 貴大学の日本語日本関係学科のカリキュラムの概要を教えてください。

1・2年次は教養課程、3・4年次は専門課程とはっきりと分けられている。

1・2年次は語学の習得とともに、教養科目を学ぶ。

1・2年次の日本語科目では日本語の習得が中心であり、2年次と3年次の中間までには日本語能力1級試験の合格を目標にしている。

専門科目の比重は重く、専門科目を二つにする場合（日本語が専門だが、他にも専門を選ぶ）には、54単位を二つ、単一にする場合は75単位とされている。総単位は140単位である。

日本語の専門は、日本語学・日本文学・日本事情が三分野となるが、それぞれ、同等に3割ずつの開講となっている。その中から学生の興味により自由に履修する。日本語専門の内部での必修科目という概念はなく（教育部の指導で、必修科目的な区分はない。例えば3年次に日本語会話を必修的に置いているが履修しなくても卒業上問題はない）各自の関心で各分野から自由に履修する。

2. カリキュラムの特色はどのような点だとお考えでしょうか。

教養段階（1・2年）の日本語では興味を引く科目を考えている。例えば、「Jポップ日本語」「アニメ日本語」「映画日本語」のような柔軟な科目も設けている。こうした科目は第二外国語としても提供されている。

専門段階では、大学院レベルに続けられるような教育を目標としている。各科目共に「専門性」を大きく確保している。ただし、大学院進学よりも就職を希望する学生が多いのが現状である。

3. 日本語語学科目以外の日本関係科目について、専門科目としての位置付けとともに、日本を専門とする学生の共通の教養的な科目として、どのように運営しているか教えてください。

専門科目は3・4年に集中的に配置されている。大学院へつながることを意識して専門性を確保している。1・2年は語学と教養だが、日本の歴史地理社会の基本を学ぶ時間は設けている。

教育部の意向によりそもそも必修科目という考え方は大学全体にない。専門をとにかく学生の興味によって学習。自由に履修できるようにしている。

学生の自分の履修状況を把握するための「授業ポートフォリオ」を作るようにしている。そのための指導の時間がある。

4. 日本語および日本を専門としない学生への日本に関する科目の提供は行われていますか。行われているとすれば、どのように行われているか教えてください。

「アニメ日本語」など学生の興味を惹きつけることを目的とした日本語授業を第二外国語として提供している。日本語授業を。また、実用外国語（2年で8単位）を開いている。語学としての日本語の提供は行っているが、教養科目としての提供は行っていない。

5. 日本語および日本に関する科目を専攻する学生にとって、日本に関する基本的な教養とはどのようなものとお考えですか。必ずしも現実に実現している範囲に縛られずにお考えをお聞かせください。

一番重要なのは言葉の運用能力とそれに基づいた日本文化への知識。それを体系化した形で自分自身のものとする。カリキュラムもそのように組んでいるつもりである。

6. 貴大学の学生さんが日本語や日本に関する科目を専攻しようとする動機はどのようなものだとお考えですか。どのような動機から学生が日本について関心を持つとお考えですか。

小さな時から馴染んでいた日本文化、特にアニメ・漫画などの影響。

通訳士希望（なぜ日本語かといわれても困るケースもあるようだが、就職の実現性が高い）日本語ができると就職がよいという動機。

最近中国へ関心が向く学生が多い。現在の韓国の貿易量は、一位が中国、二位アメリカ、三位日本となっている。現在の大統領には中国重視政策が顕著である。ただし、中国語を学んでも、中国自体に朝鮮族がいて彼らのバイリンガル能力は乗り越えるのが難しい。さらに、直接の留学生（中国の各大学の漢語過程に高等学校卒業後直接留学する）もある。何かと競合が多い。日本語の方が日本系企業に就職できるチャンスが恵まれている。

7. 日本に関する科目を運営する上で苦労する点はどのような点でしょうか。例えば、テキストや資料、生の情報など、どのような点からでもかまいません。

日本に関する学生の情報量が膨大になっている。様々なメディアを通してかつては考え

られないようなリアルタイムの情報を得ている。PCを経由する場合が多い。

テキストについては、テキストの不足以前に、テキストを学生が読まない問題がある。ビデオなどを提示しても、テキストの記述と有機的に結びつけることができない。学生の発表でも、PCを通じて得た画像や音楽情報をプレゼンするのは上手だが、体系的な文字情報的な世界と結びつけられない。

8. 日本の大学との教育上の連携を想定した場合、どのような可能性が考えられますか。

15の日本の大学と協定を結び学生の交換が行われている。天理大学とは教授の交換も行っている。学術的な交流、シンポジウムなどもなされている。

学生の交流は人数の問題が生じる。すなわち、大学自体が海外200の大学と協定を結んでいて、各大学に出て行くことになるので、学生の「蒸発現象」が起こる。

海外の大学との資料交換などが具体的にできていないことが少なくない。組織としての交流とはなっていない。

日本や英語圏の大学は当該学科以外でも希望者があり、何かと不自由もある（全体で試験で専攻するため当該学科学生が留学できるとは限らない）。

9. 日本に留学する学生に対して、日本の大学でどのような教育が行われることを期待されますか。あるいは、学生がどのようなことを学んで帰ることを期待されますか。

学部と大学院で期待するところは違う。

大学院生の場合は、国費が多いが（韓国全体の半数はこの大学）、専門の勉強を進めるので問題ない。とにかく専門の勉強を深めて欲しい。

学部の場合は、広く学び、日本を体験する。旅行に行くことも推奨する。奨学金の種類も様々。

交換留学でギブアンドテイクを同じようにするのは難しいと思う。寮の問題もある。研究者のケースだが、寮の代金が高すぎて入れない場合もあった。

10. その他

*学生は15種類の入学試験で採用している。例えばトッフル、2カ国語の能力、中国人、朝鮮族、帰国子女、実業高校生の特別試験、農漁村の試験、多くは高校の成績と修学能力試験（高校の成績だけ、修学能力試験だけ、複合、論述を加える等々）。様々な入学試験を経ているので学生なだけに学力にバラツキがある。朝鮮族学生の英語能力が小学生並みであることも見られる。

*日本語について第二外国語既習学生、日本からの帰国学生と、本当の初歩の学生とが同

じクラスで始まるという問題がある。

*韓国の大学の通例として成績評価が20名以上のクラスだと相対評価が求められている。したがって、能力のある学生でも、場合によっては低い成績となってしまう場合もある。

*日本人留学生が1学年5・6人いる。しかし、彼らの日本に関する教養に問題がある。例えば日本史の基本的な時代区分すらできなかつたりする。

*大学全体の志向として、トライリンガル・マルチリンガルの要請がある。英語科の学生も日本語を更に学び日本へ留学することも希望している。

韓国外国語大学校概要

大学の概要

韓国外国語大学は1954年創立の私立大学である。外国語関係の学部が中核であるが、1980年代に総合大学として発展し、ソウルと竜仁にキャンパスを擁している。ソウルキャンパスには、英語学部・西洋語学部・東洋語学部・社会科学部・法学部・経営経済学部・教育学部、竜仁キャンパスに人文学部・西ヨーロッパアメリカ学部・東ヨーロッパ学部・通訳翻訳学部・語文学部・経営経済学部・理学部・工学部を設置している。理科系までを含む総合大学であり、18000名の学生と440名の教師で構成されている。研究教育水準は高く、韓国における大学の格付けではトップレベルである最優秀大学にランクされている。なお、総合大学化は韓国においては一流大学として認定される条件であり、単科大学の存在しにくい社会的な条件が存在することも付言しておく。

外国語関係

外国語関係の学部は上記の英語学部・西洋語学部・東洋語学部・西ヨーロッパアメリカ学部・東ヨーロッパ学部・アジアアフリカ学部がそれであるが、言語(群)で整理すると、英語・フランス語・ドイツ語・ロシア語・スペイン語・イタリア語・ポルトガル語・オランダ語・北欧語・中国語・日本語・マレーシアインドネシア語・アラビア語・タイ語・ヴェトナム語・ヒンディー語・トルコ語・ペルシア語・ギリシアバルカン語・ポーランド語・ルーマニア語・チェコ語・ハンガリー語・南スラブ語・アフリカ語・中央アジア語の専攻に及んでいる。総合大学化しても、この大学の中核に外国語教育は置かれている。また、大学全体にとっても国際的ということがセールスポイントとなっている。

外国語関係の大学院教育

外国語関係の大学院教育は一般大学院、通訳翻訳大学院、教育大学院の三本立てで行われている。一般大学院では、言語と文学に分かれて多くの言語が博士課程までを設置している。日本語をはじめいくつかの分野では、言語・文学以外にも、政治・経済・社会と文

化といった専攻も置かれている。また、韓国語の言語と文学のコースが博士まで用意されている。また、TESOL(Teaching English to Speakers of Other Languages)の専攻が専攻横断的に設置されている。通訳翻訳大学院では、国連公用語と日本語が対象とされ、それぞれと韓国語間の通訳翻訳のコースの他、韓・日・英のような三カ国間のコースも置かれている。教育大学院では、英・仏・中・独・日などの外国語を対象とし、中学高校の教師になる教育を行っている。

日本語専攻

日本語専攻の学生はソウルキャンパスが85名、竜仁キャンパスが40名の1学年の定員である。言語・文学の大学院には合計100名（修士・博士を含む）ほどの学生が所属している。教員は14名の韓国人教員、5名の日本人教員が専任として教育に当たっている。韓国人教員の7名が言語分野で、5名が文学分野である。他に日本事情の教員が所属する。いずれも長期間の日本留学の経験がある研究者であり研究教育の水準も高く、教育部（日本の文部科学省に相当）主催の様々なプロジェクトに応募し、資金を積極的に獲得している。日本の学会との連携も密であり、国際シンポジウムなども積極的に開催している。学生のレベルも極めて高く、2年次終了後にはほとんどの学生が日本語能力試験の1級に合格する。

日本語専攻の文学部門

日本語専攻の文学部門には5名の研究者が所属している。金鍾徳（平安文学・主に源氏物語）・文明載（平安文学・主に今昔物語）・崔忠熙（中世文学・主に連歌）・崔在喆（近代文学・主に森鷗外）・徐載坤（近代文学・主に萩原朔太郎）の各氏であり、古典・近代ともに複数であり、専門分野も散文と韻文をカバーしており、好ましい陣容である。全員が日本における研究経験も豊富で、日本の学会に十分に通用するレベルの研究を行っている。金氏については、源氏物語でもプロットの上で重要な高麗の相人予言をはじめとする、半島との関係にも光を当て韓国という地の利を生かしている。文氏も今昔物語と半島の説話集三国遺事との関係に注目している。崔忠熙氏の連歌の研究は、この研究分野自体が日本国内よりも欧米に専攻者が多い分野であり、国際連携という面でも注目される。徐氏の朔太郎研究は、その詩人の重要さの割には日本でも専攻者が少ない分野であり注目される。崔在喆氏については、韓国近代文学研究の重鎮であり韓国日本近代文学学会会長である。このように、文学部門の教員の質は極めて高い。

キャンパスの環境・設備など

キャンパスはソウル市中心部から地下鉄で30分ほどの立地だが、周辺は比較的繁華な市街地であり、学生街も形成されている。都市型のキャンパスといえよう。必ずしも広い敷地ではないが、教室などの設備は整備されている。印象的なのは研究室のある棟であり、

キャンパスからのアプローチとともに、市街の大通りからの直接の出入りもできて、社会に対して開かれた印象を与えている。AVセンターはパンフレットによれば、365日24時間の開放であり、全体的にその面では先進的である。コンピューターのコーナーでは、専攻語国の国旗を機器の上にあしらうなど雰囲気作りも上手になされている。また、模擬国連など動機付けの催しも積極的に行われているようである。また、インターネットを利用したサイバー大学も行われており先取的な試みもなされている。最近新しい寮が設備され、外国人学生は206名が入居できる（韓国人学生は662名）。また、学外の宿舎（下宿）に、邦貨で一ヶ月50000円ほどの家賃で入居が可能である。学生の雰囲気は日本にかなり似ているが、日本の学生より積極的な印象がある。

（村尾誠一）